

## 献呈の辞

小高剛先生は、前任校の大阪市立大学から、平成五年四月に名城大学法学部に就任された。それから歳月の経つのはまったく早いもので、先生は、本年の三月をもって退職の年齢を迎えられた。私どもとしては、誠になごり惜しい限りであるが、先生のご退職を記念して、ささやかではあるが、論文集を刊行することにした。

小高剛先生は、名城大学法学部に着任後も、実に、多彩でかつ華麗なご活躍をされた。そこには、よき教育者、研究者そして国際人としての姿が浮かび上がってくる。

小高先生の薫陶を受けた若き学者と学生は、学内外を問わず数多い。特に、先生の指導を受けた若き研究者は、わが国の今後の行政法研究に大きく貢献することになる。また、先生のご研究とリサーチの場と学友は、英語圏ならびにアジア圏と実に広く、まさにグローバルである。先生のご研究の国際性と信頼性は、このような科学的な国際的な環境にあると言えよう。

小高先生は、大学では学生に好かれ、教員間でも気さくで、研究者としての気品を備えておられた。そして、教育と研究における凜とした姿勢は、多くの賢人に多言を要せずなつかせる品格をお持ちであった。まだ、先生は精神的も、肉体的にもご健康である。今後のさらなるご活躍とご多幸をお祈り申し上げる次第である。

平成十九年十一月吉日